

「飛行機操縦訓練中の事故」

水谷郷

戦時中、飛行機操縦訓練中に事故は多発して多くの命が無駄に失われたが、公表されていないので一般にはあまり知られていない。私が経験した大きな事故の一つを紹介する。

私は少年飛行兵9期の整備の過程を昭和17年6月に終了して熊本県菊池飛行場に在った第103教育飛行聯隊（※1）に整備兵として配属になった。

その年、11月24日、この日、快晴、雲量零、風向西、気温18度。当日、操縦学生の訓練を終わり、時刻は11時過ぎ、教官、助教の慣熟訓練（※2）が始まった。

課目は「地上平面的射撃」ピスト（※3）横の芝生の上に縦横2メートル程の白布の標的を広げ、この標的に向かって上空400メートルくらいから突っ込み機関銃射撃を行う。但し訓練であるから操縦桿の射撃ボタンを押すと、翼上に装着されたカメラのシャッターが連動して標的の写真が写され、射撃の正確度が判明するようになっている。

操縦者が機体の突っ込み角度を規定の角度30度に保ち、照準眼鏡をにらんで正確に機軸が標的に向くように飛行機を操作しながら突っ込んで行き、照準があったところで発射ボタンを押し、操縦桿を引いて機体を引き上げる。

瞬間の引き上げ時機を失すれば、機体が地面に激突しかねない。高度の操縦技術が要求される訓練科目である。

教官、助教機の1グループが順次離陸して行く。離陸方向は西向き、3機が上空に在って一番機が第4旋回（※4）時点で機体を左にひねって突っ込んでくる。レバーを絞って降下してくるからエンジンは空転状態で軽やかにペラ（※5）の回転が上がり、引き上げると同時にレバーを押してエンジンにガソリンを送り馬力を上げ、排気音を轟かせながら急上昇して行く。

一番機が上昇して第1旋回にかかるところ、2番機が突っ込んでくる。その頃3番機は第3旋回点付近にあって、適宜の間隔が保たれている。練達（※6）のパイロットたちの見事な操縦が続き、次のグループが離陸して行く。何の支障も無く、訓練は順調に辿っているかに見えた。

間もなく演習終了となるので我々整備員も撤収にかかるべく、私

は、飛行場東端の列線にある自分の愛機の操縦席に座って、地上滑走のためのエンジン始動に取り掛かろうとしていた。

その時、異様な爆音^{ばくおん}に気付いてふと右上空を見上げると、2機が同時にピスト横に敷^しかれている標的^{ふぼん}の布板目掛けて突っ込んでゆく。

「あ、あ、あ、どうなるのだ、これは！」と思った瞬間、下の機がグイと機首を上げると同時に両機が激突した。地上100メートル前後の低空である。

「グァーン」という宛^{あたか}も戦艦^{せんかん}の大砲^{たいほう}が発射された時のような凄まじい音^{とどろ}が飛行場一帯に轟き渡った。

上の機はそのまま地上に落下して飛び散り、下から引き上げた機は、右翼^{うよく}をもがれて左翼^{さよく}の揚力^{ようりよく}だけとなって右回転しながら大きく放物線を描いて150メートル程先の地面^{げきとつ}に激突、飛び散った。

「これはえらいことになったぞお」

私は気が動転したまま操縦席から飛び下り、夢中でピストに向けて走っていた。

数秒後に現場^かに駆け付けた時、そこはガソリンの強い臭いが周辺に漂^{ただよ}い、飛び散ったどす黒いオイルの中にアルミのガラクタと化した機^{ざんがい}の残骸、その中央に飛行服姿の辻曹長^{つじそうちよう}と竹下中尉^{ちゆううい}(陸士54期)

が覆い重なるようになって突っ伏して、既に物体と化したかのよう
に身動きもなかった。

そしてそこには、今まで上空に響いていた爆音が瞬時に消滅し、
周辺を取り巻いた誰もが茫然、息を呑んで一言も言葉を発しない異
様な静けさと、降り注ぐ晩秋の明るい日差しがあった。

畠山中隊長が一言も発せずそこに立っておられたが、キラリと目
が光り、前方の地面に激突した機の方に向かわれる。私も後を付い
て走った。

その機も同じ様な状況であったが、操縦者は蒔田少尉（陸士55
期）で地上激突の際、操縦桿が咽頭部を貫いたようであった。

「蒔田！蒔田！」

と中隊長が大声で呼ばれ、顔を引き起こされたが「駄目だ」と首を
振られた。

数分経って、飛行場大隊の方から車が駆けつけてくるのが見えた。
事故の後始末は、飛行場大隊が担当するのである。

そして私たちも整備班長高野中尉の指示で黙々と飛行機の撤収
にかかった。

当時、私は18歳の兵長。終戦までに事故は数々経験したが、初

めての経験がこの大事故で生涯しょうがい忘れられない強烈きょうれつな印象として
胸奥きょうおうに刻み込まれている。

※1 教育飛行連隊 … 陸軍の航空部隊の一つ。新人飛行兵の訓練のための部隊で、昭和17年5月に編成された。

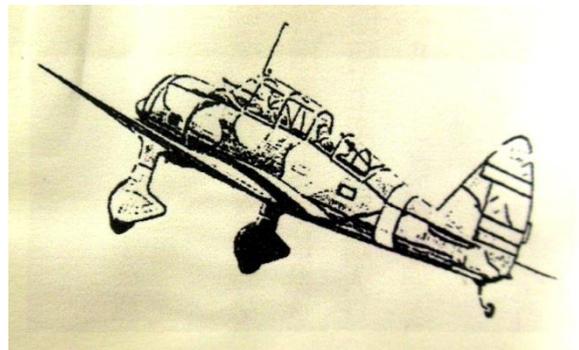
※2 慣熟訓練かんじゅく … ある程度の技術を習得した後に行われる高度な技術を必要とされる訓練のこと。

※3 ピスト … 普通のパイプテント。訓練開始の時、飛行場中間点付近に組み立てて、訓練指揮所として使う。

※4 第4旋回せんかい … 飛行機の操縦訓練において、離陸から着陸までの一連の流れのうち、着陸態勢前の最後の旋回せんかいのこと。飛行機は高度を下げ滑走路かつそうろの正面に対することとなる。

※5 ペラ … 飛行機のプロペラのこと。

※6 練達 … 熟練していること。



訓練使用の九八式直協偵察機

